

おもしろいね！が、きっとみつかる。

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.25
(平成28年11月発行)

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」特集号

とちぎボランティアNPOセンター（愛称：ぽ・ぽ・ら）は、栃木県内のボランティア・NPO活動を応援、推進する拠点として、県庁の西側にあります。現在の登録団体は約630、3階建ての施設には、事務室、交流広場、作業室、研修室、多目的ルームなどがあり、団体の活動を支援しています。

「ぽ・ぽ・ら」は、ボランティア・NPOの自立成長支援や、ボランティア・NPO・企業・行政等が協働を行う上で必要なネットワークづくり、県民の社会参加への応援を行っています。

具体的には、①施設の貸し出し等によるボランティア・NPO活動の場の提供、②活動に関する助成金情報やイベントなどの情報収集・提供、③ボランティア活動やNPO運営・法人化等の相談・コーディネート、④活動や組織運営・マネジメント、各種講座、研修会の開催などの教育・研修、⑤団体相互の連携、ボランティア・NPO・企業・行政のネットワークの促進等です。

（「ぽ・ぽ・ら」は、人々、市民などの意味を持つイタリア語 popolo に由来したものです。）



NPO 会計基礎講座



テーマ別 NPO ミニサロン

◆ 「ぽ・ぽ・ら」登録団体の活動紹介

- ①俳句会「夕顔会」を訪ねて
- ②琵琶をとおして地域社会に貢献
- ③目の不自由な方々にも映画を愉しんでいただきたい

◆ 地域デビューコーナー

鬼怒グリーンパーク白沢桜並木(東岡本町)

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。



【「夕顔会」の句会の様子】

「句会とは、どういうことをするのだろうか」と、以前からとても興味があり、会の様子を伺うと、会場正面のホワイトボードには、『兼題（柚子 山茶花） 自由句』と書かれてあり、この意味は、次回11月の句会に、「柚子、あるいは山茶花という季語を含んだ句」と「自由なお題で読む句」の2句を詠んで提出するという意味でした。

また、別に、机の上には2枚の紙があり、1枚は、兼題句「行く秋」と「草紅葉」の17句が並び、もう1枚には、自由句の17句が並んでいました。そして、それぞれの用紙には、「選」「位」「作者」の欄があり、これは前回の句会で課題になっていたものでした。

参加者の皆さんは、この詠まれた句を見ながら小さい紙に何か書いて提出されており、その後、集計結果が発表され、「4句入りました」とか「2句入りました」という言葉が交わされていました。最初は、この意味が何なのか分かりませんでした。参加者が1人ずつ、「〇〇番をいただきました」と言いながらその理由を述べていたので意味が分かりました。「4句入りました」は、4人の方が選んだという意味でした。

最後に、下野新聞の俳句の選者でもあり、「夕顔会」の指導をされていらっしゃる、中田亮先生から1位から3位までの句の発表とその講評があり、続いて、選に漏れた句の講評もありました。印象に残ったことは、「説明語、報告語は使ってはいけない。その光景の特徴をつかんだ描写が欲しい。」という中田先生の指導でした。

この「夕顔会」の目的は、『こういう形で句会を実施し市民に披露する。それがゆとりのある心豊かな生活につながる』とのことで、まさにボランティア活動の趣旨に沿った活動と言えます。

「夕顔会」は、栃木県シルバー大学校中央校のOBの集まりで、津久井さんを会長に16名の会員で活動しています。皆さんボランティア活動に熱心な方ばかりで、ますますの活躍を期待しながら、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

『俳句を詠む』とても優雅な感じがする反面、顔をしかめながら、悩みながら詠む姿が浮かびます。

難しいという印象を持ちながら、句会の会場である「西生涯学習センター」に、俳句会「夕顔会」の津久井達夫会長を訪ねました。句会は女性が多いせいかわやいだ雰囲気、しかめっ面とは程遠い楽しい雰囲気であり、自分も仲間に入れてもらって俳句を始めようかと思う程でした。



【中田先生（中央）のユーモアを交えた講評の様子】

② 琵琶をとおして地域社会に貢献

取材:古谷野特派員



【練習風景】

琵琶の音は言葉では上手く表現できない繊細な音色です。力強く大きな音でも、その音はどこか物悲しく哀調を帯び、余韻のある深い響きは聞く者の耳に、ある種の感動を覚えさせるもので、他の楽器にはない独特の雰囲気を持っています。

「薩摩琵琶遊英会」代表者の森山遊英^{ゆうえい}さんは、栃木県内に4人しかいない琵琶の師範で、イベントなどの演奏をとおし地域との繋がりを大切にしながら琵琶楽の普及に努めています。

「薩摩琵琶遊英会」は今から8年ほど前、森山さんが市内のイベントで琵琶の演奏をした際、来場者から、集まって練習できないものかとの相談がきっかけで出来た会で、現在、会員は30代から80代半ばの7名がおり、定期的に集まり演奏技術に磨きをかけて練習に励んでいます。

この日訪ねた練習会場の「清原地区市民センター」の一室で、森山さんと会員の方との貴重な練習時間を割いて「琵琶」を見せていただきましたが、その形状は、本体上部の弦を巻く部分は直角に曲がり、他の楽器とは全く違った独特の形をしており、弦を指で押さえ音程を変えるところの柱は高く、弦を深く押し込めることができ、弦の張力の変化で広い範囲の音程調整が可能となっており、琵琶独特の音色はこのあたりのつくりにあるのではないかと感じました。



【琵琶本体とバチ】

会として今年は充実した年にしようと、練習中の会員の成果発表をする機会として、6月に鹿沼市で発表会を開催。発表会も、会員だけではなくボランティアとして手伝ってくれる方々も多く集まり、さらに他の団体とコラボし、多くの方とのコミュニケーションや和を大切に成功裏に開催できたとのことでした。



【森山遊英 氏】

森山さんは琵琶の普及に尽力するかたわら、地域の活性化に役立ててもらおうと、県内各地の偉人・伝説・歴史・文化財などを題材として作詞し、親しみやすい琵琶曲として演奏もしています。

「薩摩琵琶遊英会」の古典芸能としての琵琶への理解を深める活動、さらには琵琶をとおして地域社会への貢献活動の今後にますます期待したいと思います。

◇ 興味・関心のある方は、とちぎボランティア NPO センター「ぽぽら」のホームページから「薩摩琵琶遊英会」で検索しコンタクト願います。

③ 目の不自由な方々にも映画を愉しんでいただきたい 取材:石井特派員



【「映画音声ガイド」グループの皆さん】

っきの方は？」と握手を求められることもあり、武田さんのファンの方もいらっしやるとか。アクセントには泣かされ、台本が書き込みでまっ赤になる程で、辞めようと思ったことも何度もあったとか。しかし、めげずに練習に励み、要望に応じて県内の上映場で活躍中。今回取り組む作品では、終幕を担当なさるとか。まさに「青春」真っ只中。人生かくありたいと思わされます。

この「映画音声ガイド」グループは、映画の中でセリフとセリフの「間」をぬって、場面や情景描写、人物の動きなどを視覚障がい者に伝える上映現場での肉声ガイドを目的に、平成18年3月に「ひびき」の中のグループの一つとしてスタートし、月に3～4日の勉強会を続け、現在14名で活動中。「映画を見るのを諦めていた視覚障がい者に大音量の音声を体一杯で感じてもらい、臨場感に浸り、他の方々と一緒に楽しむ喜びを味わってほしい」と願い、日々切磋琢磨して技量を高め合っています。「セリフとガイドの区別が付かなかった」「映画は久しぶり。ありがたいねえ」等の声が励みになっているとのことでした。

1本の映画音声完成するまでには、かなりの期間がかかるとのこと。まず映画の選択、利用者の要望、有名・話題作、DVDになっているかを全員で検討し、1本を選択。次に、全体を人数で分割し、くじ引きで各担当者を決め、台本を執筆。それを持ち寄り、セリフと重ならないか、表現が適切で最少字数の「伝わる言葉」にしているか、場面の状況や雰囲気や伝わるかを等検討し、第一稿を作成。その後、読み合わせと台本修正を繰り返し、峰岸先生の全体指導を受け完成となります。

今回、音声化17本目となる、読み合わせの場にお邪魔しました。画面に合わせて、発音やアクセント、間に注意し、特に、メンバーのリレー式による肉声ガイドとなるため、つなぎ目がスムーズで違和感をもたれないよう、一人でも飛び抜けた音声にならないように練習されていたりしました。まさに時間との真剣勝負。耳に音声が心地よく響いてきました。

この活動に関心や意欲のある方は、朗読ボランティアグループ「ひびき」の矢野明子さん（TEL 028-627-3974）へご連絡を

80歳を越えて精力的に「映画音声ガイド」ボランティアに取り組む武田光雄さん。「青春とは、人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。たくましい意志、・・・燃える情熱をさす。・・・」を彷彿とさせる方です。

音訳奉仕員養成講座修了後、朗読ボランティアグループ「ひびき」に入り、大病が癒えて打ち込めるものを探っていた時、「映画音声ガイド」の呼びかけに応じて参加。「皆と作り上げて、その次への楽しみが活動の源」とおっしゃる年齢を感じさせない若々しい美声の持ち主。「いいお声ね。あなたですかさ



【映像に合わせて読み合わせ中の様子】

前号に引き続き、今号も鬼怒川沿いの桜並木を取り上げました。

河内地区の東岡本町で鬼怒川と合流する西鬼怒川には2ヶ所の桜並木があります。

1ヶ所目は、最上流の上河内緑水公園脇の堤防に昔江戸荒川堤にあった御車返し等の名品が移植され、今はその名残の影すらも見られませんが、名桜由来が記された旧上河内町の大きな案内板が掲げられています。

2ヶ所目は、東岡本町にある鬼怒グリーンパーク白沢桜並木で、場所は、国道4号線を高根沢方面に北上し、鬼怒川橋手前の藤井脳神経外科病院入口の交差点を左折、JR宇都宮線の踏切を渡り、野中の一本道(彼岸花ロード)を2キロメートルほど北上したところで、右側に大きな駐車場があり、堰堤の桜並木入り口となっています。



【手入れが行き届き管理された桜並木堤】

今回の取材は、日本行政書士会連合会の会長も務められた重鎮である、白沢町在住の住吉和夫氏を訪れてお話を伺いました。桜堤の桜並木は二代目で、初代は1949年(昭和24年)関東地方(小田原)に上陸した「キティ台風」により堤防が決壊し流され、その後改修されて先に記した桜並木の植栽に住吉氏が率先して協力したとのこと。住吉氏によると、きれいに整備されていた田園と堤防は「キティ台風」により荒れ果てた河川敷に変貌してしまったとのこと。



【彼岸花ロードから眺めた桜並木堤】

新田開発の労働力を確保するため、入植者を北陸や中国地方に求めることにより事業は見事成功することになりましたが、彼の熱意と上人の精神的な支えで実を結んだのでした。

後日、河内町誌をひもとくと、現岡本新田の地は鬼怒川河川敷直中の荒撫地であったのを、江戸の豪商・二代目佐野屋孝兵衛(菊池教中、江戸末期尊皇攘夷運動に関わった人物)が当時の江戸の争乱を心配して、宇都宮に家族共々引っ越して新田開発に乗り出し、当時の宇都宮藩に申請書を提出。当時の藩も新田開発を奨励しており、直ぐに事業許可を出し便宜を図ったとありました。なお、この事業を精神的に支えたのが城下の浄土真宗本願寺派観専寺の上人で

そこで、開拓地は当初「佐孝新田」「孝兵衛新田」と呼ばれていましたが、明治5年に岡本新田に、次いで町村合併で河内村となり、開発から100年に当たるのを機に「東岡本」となり

ました。土地の人達は当初桜並木も「佐孝の桜」と呼んでいたそうです。

なお、当初は気が付きませんでした。並木の傍らに大きな石が埋められていました。住吉氏の話では、募金者の名が彫られているとのことで、再訪時に改めて確認すると各石に銘板が埋め込まれていました。

中には〇〇在住 20 年とか、結婚 40 周年記念植樹等々、その由来や年代が記されていました。その他、故人で超有名な政治家や歴代の県知事の名前が目を惹きました。それぞれの思いが込められた桜並木です。



【西鬼怒川緑地公園の名桜案内板】



【記念樹寄贈者の銘石】

「参考までにネットから」 『朝日日本歴史人物事典（朝日新聞出版）』より引用

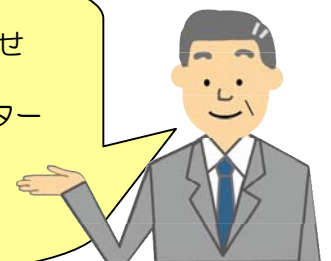
菊池教中

没年：文久 2.8.8(1862.9.1) 生年：文政 11.8.17(1828.9.25)

幕末の豪商、志士。父は淡雅，母は民子。江戸に出店して巨富をなした父の跡を継いで佐野屋孝兵衛2代目を名乗り、澹如と号した。開国に伴う経営不振と姉婿大橋訥庵の思想的影響により、熱烈な攘夷論者となる。列強との戦争に備えて宇都宮に拠点を移し、岡本・桑島両新田を開発、その功で宇都宮藩士分に列す。自らを同地の領主ともみなし、輪王寺宮を日光に擁立拳兵する運動を画策するが、失敗。次善の策として宇都宮、下野、水戸の草莽の志士による老中安藤信正暗殺計画を援助した。文久2(1862)年1月、捕らわれ投獄。出獄後、病死した。〈参考文献〉秋本典夫『北関東下野における封建権力と民衆』

《事務局からのお願い》

- ・ 「みやシニア活動センター通信」をご覧になった、ご意見・ご感想をお聞かせください。今後の参考とさせていただきます。
- ・ 地域で活躍するシニア世代の方の情報がありましたら、みやシニア活動センターまでお知らせください。
- ・ ご意見・ご感想・シニア特派員等に関するお問い合わせは、下記までお願いします。



○ **発行／編集** みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市中央1丁目1-15 宇都宮市総合福祉センター8階
電話：028-639-8585 ファクス：028-639-8575
ホームページ：http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp